



やはた

The Salvation Army YAHATA Corps



八幡小隊に関わりのある皆様

「わたしは心を尽くして主に感謝をささげる 正しい人々の集い、会衆の中で。主の御業は大きく それを愛する人は皆、それを尋ね求める。」 詩編 111編1、2節

11月になりました。急に季節が進み、朝晩暖房がこいしくなってきました。皆さん、いかがお過ごしですか？ 体調を崩していないでしょうか？ いつもご支援、お祈りをありがとうございます。

さて、11月9日（日）には、今年も、八幡小隊召天者合同記念会を開催いたします。ご出席のお返事もいただいております。110年という長い小隊の歴史の中であって、イエス・キリストにつながり、信仰をもって人生を生きられた先達を偲び、また小隊活動にも忠実に奉仕してくださったお一人お一人に感謝したいと思います。そして、今を生きている私たちに必要な知恵や力を、聖書の御言葉からいただく時をもちたいと願っております。

先日、古い『ときのこえ』の記事の召天者の方についての証しに目が留まりました。寺崎美智子さんが父上の寺崎勝美さんについて書かれたものです。抜粋したところをお載せします。

救世軍人であった父のことを証しいたします。父は昭和三年、救世軍熊本小隊の野戦（路傍伝道）で救われました。昭和五年、幼い長男が天に召され、父はそれをバネに医学校に入学いたしました。そして北九州の小倉に開業して四十年間、小児科の町医者として診察に勤めました。父の診察は、診察の時間より身の上相談の時間が長いと言われるほど、お母さんたちの色々な悩みを一つ一つ聞き、ていねいにアドバイスをしていたようです。また、二十四時間、いつ病院の扉をたたいても診察していました。現在のように救急病院も無かった時代です。診察が一段落しますと、診察室の中から、大きな声で救世軍歌を歌っている声がよく聞こえました。軍歌「みたまよくだりてむかしのごとく くすしきみわざをあらわしたまえ」と、よく歌っておりました。

その父が亡くなりました時に、たくさんの患者さんや家族の方々から大変惜しまれました。葬儀も終わり、後日市場へ行っておりますと、子供の手を引いたお母さんから声がかかりました。「先生のご容態はいかがですか。」「それが、一週間前に亡くなりました」と申しあげました途端「ワッ!」と泣き出され、私の方がオロオロと慰める始末でした。また、命日に必ずお花をそっと玄関に置いていかれた、子供の手を引いたお母さんもおられました。……それも、これも、ひとえに昭和三年に救世軍によって救われたことによるのです。仕事柄、なかなか集会に出席できなかったようですが、聖書のみ言葉を実践したいと思っていたようです。「尊いのは、愛によって働く信仰だけである」（ガラテヤ書五章六節）

こんな父の信仰のあとを継ぐ者として、あまりに小さい私です。しかし、こんな小さい者にも神様のみ手は働いてくださいます。（『ときのこえ』1997年4月1日号より）

召天者合同記念会の中で、毎年、記念する召天者のお名前を読み上げながら、思い出の写真を映します。ご家族、信仰の先達の姿を見て、その方の生き方に思いを馳せ、聖書の御言葉から恵みと力をいただき、また互いにお交わりの時をもちたいと思います。お誘いあわせの上ご出席ください。

皆様のご出席をお待ちしております。

発行 2025年11月



福岡県北九州市八幡東区
昭和2-4-5

TEL (093) 652-1584

FAX (093) 482-5077

E-mail: yahata@jap.

salvationarmy.org

小隊士官 樋口和光

小隊士官 樋口愛子

樋口少佐 携帯電話番号

070-1390-5365

2025年救世軍標語

「信仰の遺産の上に築く」
（テモテへの手紙二 1章14節）



昨年の記念会、納骨堂前で

■八幡小隊 11月聖別会（礼拝）のご案内

9日10:30a.m. 八幡小隊召天者合同記念会

司式 八幡小隊士官 樋口和光少佐

14:00p.m. 墓前礼拝（本城霊園小隊納骨堂前）